特別
へ13
1181
7

東京師範學校

善悪道ちがい記

自序

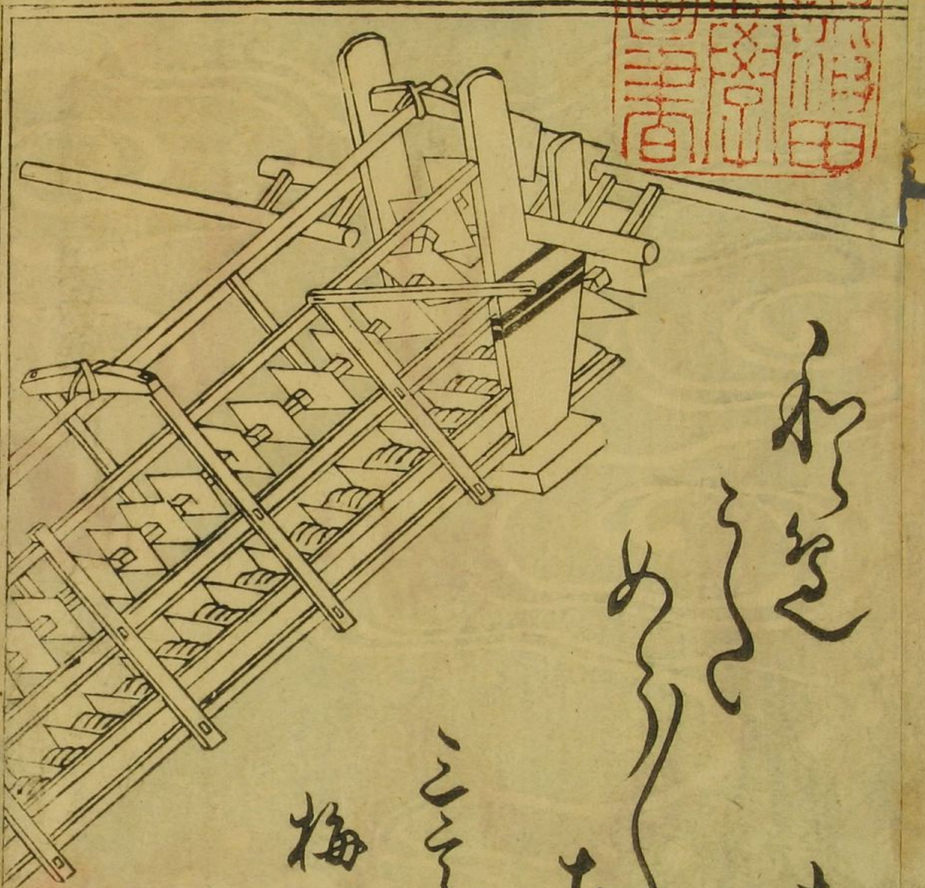
夫道ゝる正路を過ぎ色欲の横道へ入癖情の身を果しの杜より非義非道の奸道へ出て終ゆく三尺高き木のそら路へ上るも悉皆五常の本街道を知らざるが故ぞ。

さるバ是等の國字稗史をも心をとゞめ閲なば自然と仁義の道を識る道標ともなりぬべし

萬延二辛酉歳初春発兌

三亭春馬記

みぎわの杜



十二ひとへを
ここのまでかる
梅蝶楼国貞画

花摸擬巻中肖像

うち雨中の　あめ　あるじ　まつ　かた　逝君

花よしき　　玉苗

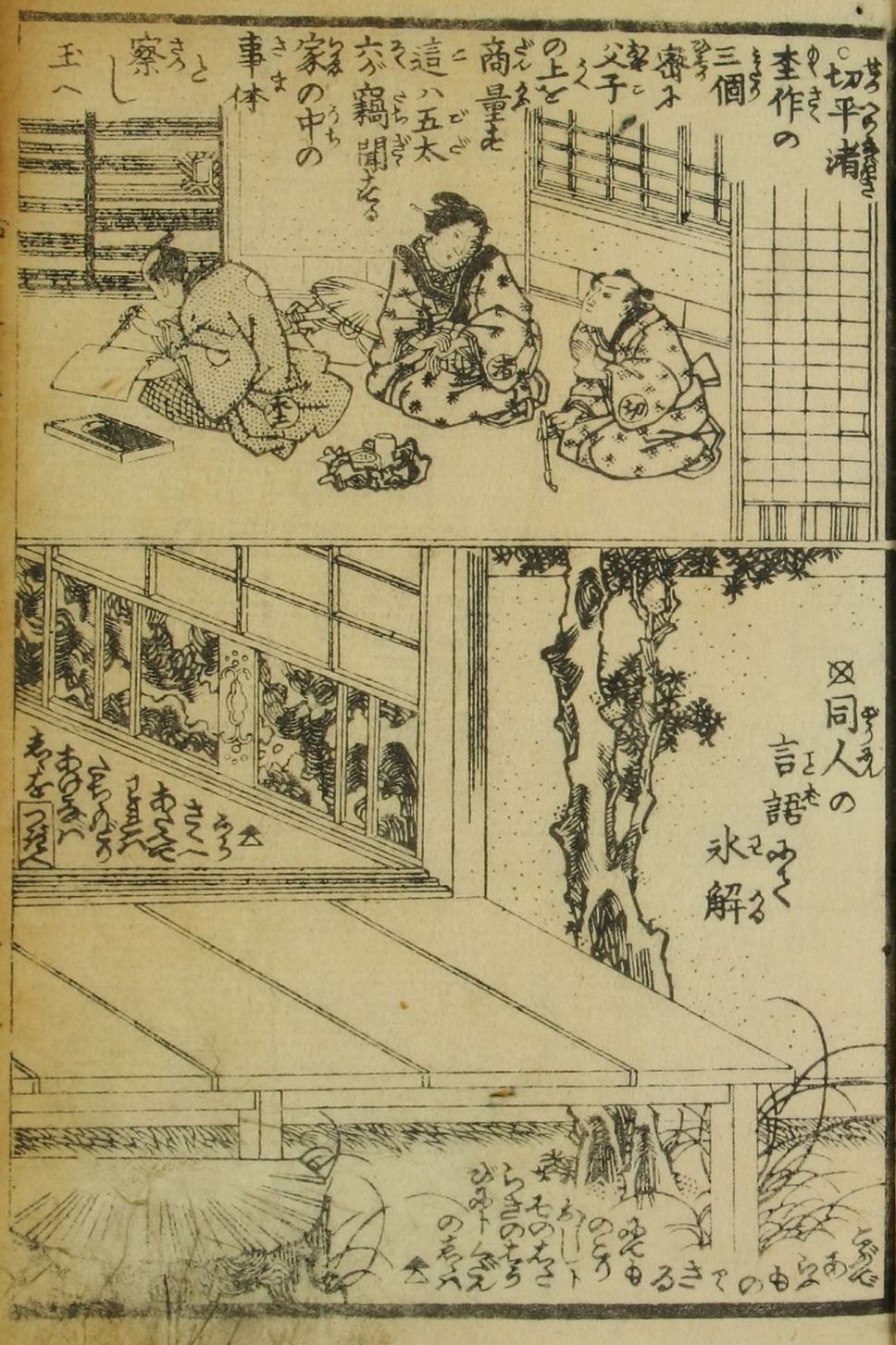
麻衣
擦るわざの
服手
擦り

雪小
白の雫
おもやぎぞ
優し
いとぢくら
雪下ろす老女比も
栄窓の
老婆の変化もむ
花垣
恋人忍ぶろ
重三郎
若衆比も

牡丹の花よ比古を
切平
もし一下水
牡丹鬼神下
曲亭馬琴

清
七刀

荘官の家外み五太六竊聞き話解い図



○切平清李作の三個寄み事に父子の上を商量ぜん這ハ五太六が竊聞きて家の中の事体と察し玉へ

図同人の言語みく氷解る

切
清

主

七切
渚

五

五

七切
渚

つづき

おりひいふうろ
はぢのさま一のあっこそち
むーうまきまぜこそち
つこひみいきせみト
そろたうりいそ
けどもこちそろ
のうねをそのの
かひる
さ
いきを
そうりみ
五大六ぐ
あひるけへ
ひみうち
あとろき
いっくる
ひまつみ
五大六い
むりひも
ちくるりー
生くあひひろ
そうきてをもも
こうのみのーッうび
かりて
うのびさまろこと
ひろよりあのち
るぐうんまりよもも

そうイト はるこ三ぬつと
ひかいつる
そうあーまを
ぐうろうよを
五大六ぐ
そうんとるをを
さてりうぎさ

一陣
きろうとあとしきそうんの
ぐうんちよをつトみた
あびァレコくトあ人ゲ
おどろくひまさ人中空ぎ
ゆくよこそみろぐまろ
ひろうくトるる田面ぐへ
そびさるみぞ五大六
そうまトこうろうさあび
ひまさまあるひまさ人本
あだまさそんせト
つたろーぐうぎよの
ゆくあをあろひつ
ちぶがごくふんせ
ゆくをゆびトうぶ
さうんなるあなそるん
トるまそびヤ・ト
ようぶうあ三五三ぬ
ゆひまりし揃くたのきめ
こびくのうろ

つぎよう こちらるぞ

あるぞ さいあごろ

なのひがみ ねがこまで 下だろう のよう もあく つのかる るこのだ さのろさを うちろいて おのがろんどの 天甚益がを ゆをさいも こぜそ まてこと ようろ名 「る名 さト

ゆうえんこうが 意中おうをを ちろうねバ さぞ おどろ

ろれつつんがが とろろまづめそ ろうがいをきみ さやそろうぞ 銭車仙女ゃの ものをうをそ そのそうをまろ ことふ二晩ときま あまのゆどりの ことぞなどろうを うぎふるみ いるそちうぞんちよ ねがいのおがい ふこちまうり ん名ろよ

▲ふ月あがぞんちよこと とろうをまろさんハ むのきのぬぎの ちろうをを ちちの節美ちをうのひどりもふく あハ月をまあんそうのぎのおおろ つぎへ

春馬作
國貞画

「つぎ」のそくのごくそこびみりそ…

御免瘧積湯
御用薬所
せんきの妙薬
信州上田 東山堂製薬
一包 四十八銅
一包 廿四銅

本家
寶母散
由橋南傳馬町一丁目東ゟ
千葉堂孝輔製

濡衣霧雨雙紙
初篇ゟ追々出板
柳亭梅彦作
梅蝶樓國貞画

伊達關戯場取組
初篇ゟ三篇まで
河原崎権十郎作
梅蝶樓國貞画

ものもの胡蝶巻 一名馬切
初篇ゟ追々出板
柳亭種彦作
梅蝶樓國貞画

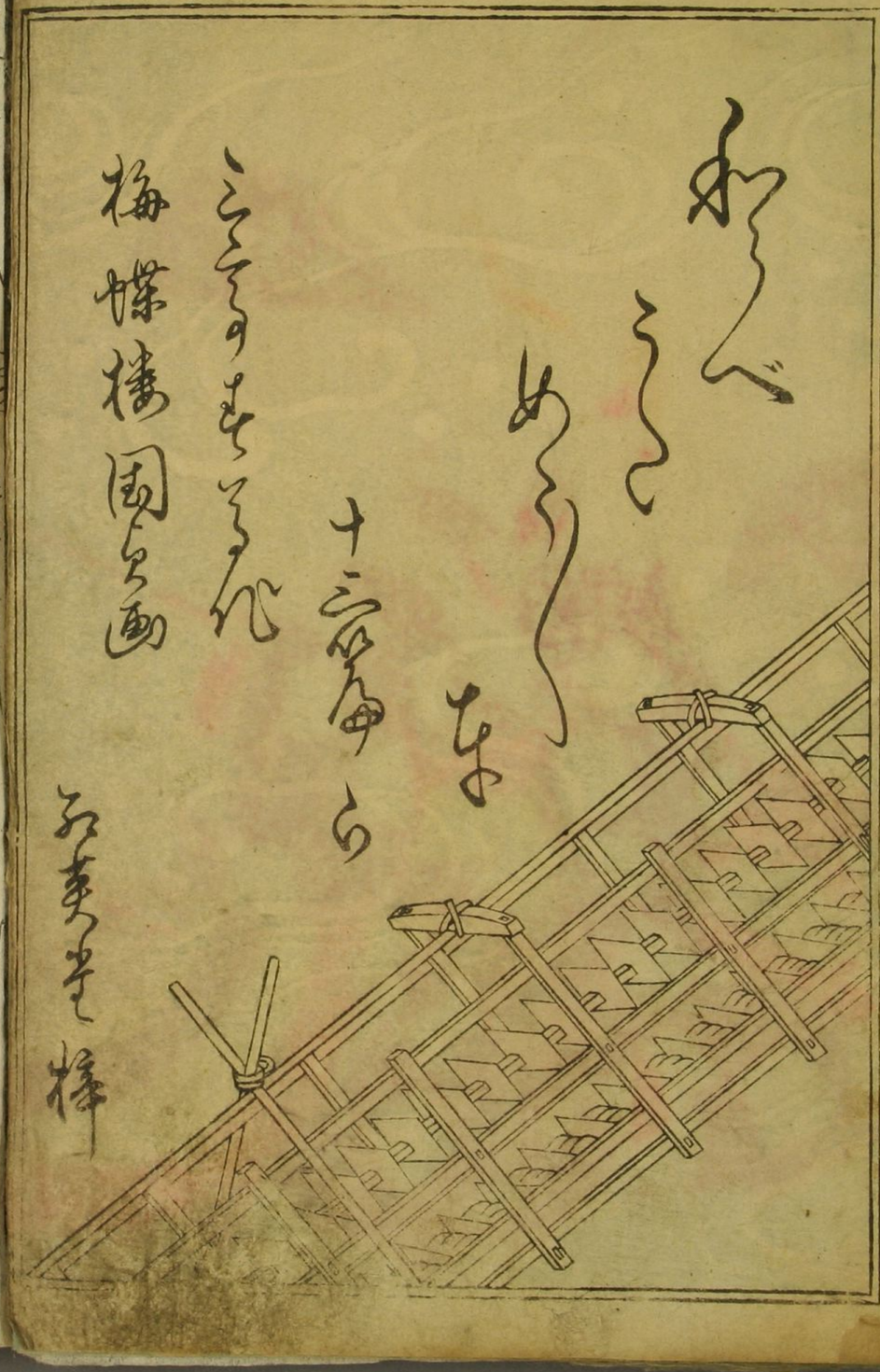
十三編下

二百餘年前の
ふるさとの
ありさま

▲まづ一具偽書
紀明
をささげ
あまくだりて
こなたの
こなたを
こなたよこえん
時廣
ねがはくば
おのづから
あるべき
ものくらの
一言
つづく

▲話説の
さま
支体を
多く
画き

妙々道人奇術を以渚の數書を
奪萬僧み託て
然ぞも這
五大六み見へぶりシト
這ハ梵論寺グ



つづき

ちゑ平

つぎ まろうこあいうあろう
ろくさよトきひとせう
平ーとろぎをうち「ろる
そどさろうのみてぇー
なぐろうさてどのうっ
きのろうひがのろひと
ひひ」よみるるうさんろく
つきひのうろのへゆのまま
そのごそうこそひりさあ
鎌車仙ろん めいちがひある
ナイヤとやうくとそるま
まろめ アレおひさあへ
真上えめろうく
もまうろのまきをを
うつーこうろうめく
さくさをもあんよそ
ござらうこをにも
そあんこの吉左右
きうおこまろう
あてよろこべ
さうろくきろ
ーとうもつまー
ざらうろもまこ
そろめけう中馬だを
あーろこまのーつ
もとまーあの
あつこそもを
よろだろ

▲ろまうやのせどちくきあるもうへ
まうやのくさ
さろうのもまの
やこせもうん
るだあをに
さつくもっやく
ろうくうちつま

本

人こそまよあいまをにまのぎうそよろうあまいもつくろうこ
ちゅうぐイヤとまのーゆうきうーゆうそろやーエ々ーゆびとあうこうこんどのそぎまびろうこんのせりろうゆうあるうこ
「ナニエまあひまうそろやエ々ーゆ
りくさよろこびがイ下りま
そのちうろうみらぎこうこそろうこ
そのとこまそ天うあ
ろうこりめくぎ
家ぐろーろうまをりひまろこそごろうなぎうほこ
のあ人
ぎうくこまびめくこそ
ちあぎーこそ
ひごろーゆまエ下むうの一老

きこれがいろろるこのむぎもーうとろくさのエおろへるの一こゑゆ
ーこゑんとのいさまゆもうをそうん
「るんのおまこいふゆひまーやっひくきふおのうらうさことのあゆこのまゆうのエろまこがゆうろうのうろうさそのさこをへこのこがのもうとこまのもうがこゆくもぎらぎこのちゆトまゆくふさりいうちよろっこ「そまいくこまりせうおまこのへエもふつくさままねかろうざーおうとこかうこ
わへまろぐうもあそんこのエおろへるの一こゑゆ
ーこゑんとのいさまゆもうをそうん
「るんのおまこいふゆひまーやっひくきふおのうらうさことのあゆこのまゆうのエろまこがゆうろうのうろうさそのさこをへこのこがのもうとこまのもうがこゆくもぎらぎこのちゆトまゆくふさりいうちよろっこ「そまいくこまりせうおまこのへエもふつくさままねかろうざーおうとこかうこ
せろ平おろごろうさうゆまこ
さうバトまりあをあまうろのきぎふざめるかーもろごくのとかほこくさまおろうてゆくをうえ一つ

五

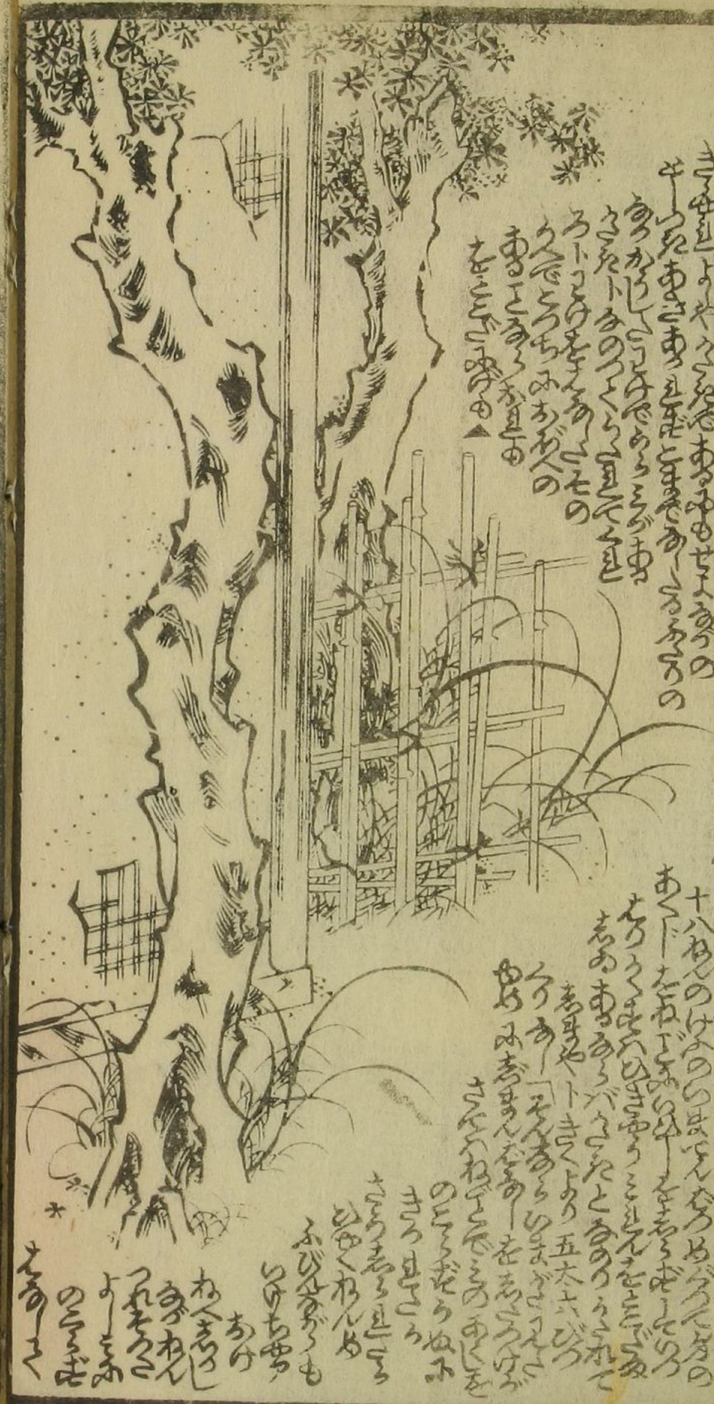
五
貳

五

五

賤

這盲人寔の
名号あり
然ども
不知
誰の
編著
と云ふ
今解
これ是より一葉半ハ
一目ふ見こと
出来ず
御覧ぜられ
候ハヽ



外題曲亭馬琴

十四編上

三亭春馬編著

梅蝶樓國貞画

十四編下

十四編上

外題画工國貞

三亭春馬編著　梅蝶樓國貞画

巻ごとに絵ぞめ

柳下亭の舊稿を嗣三亭の新案い前車ゝ劣らぬ功者ゝ文勢四輪車ゝ乗ゝ
孔明ゞ錦嚢ゝ披ゝ姜維ゞ肝玉膽斗售るゞ美い證拠然ゝゝ春馬子八篇の
序ゝゝ既ゝ書ゝゝ如ゝ月ゝ群雲の障导有ゝ當年ゝ孔ゝ隠ゞゝゝ一帙填ゝ
らんとのゝゝヲト合點と引受られど華の重ゝゝ轉らぬゝ石炭絶ゝゝ意氣亂

重歌舞伎
十四番續
狂言
柳亭
作
歌川
豊国
画

十四篇よきもの十三人のそぢめ

柳下亭の舊稿を嗣三亭の新案い前車ら覆ぬ功者ゐ文勢。四輪車ゝ乘ゟ
孔明ゞ錦囊を披く姜維ゞ肝玉膽斗奮るゞ美い證拠然ゝゝ春馬子八篇の。
序ゟも既ゟ書ゟ如く月ゟ群雲の障导有て當年ゐ孔ゟ隱ゞゝ一帙填て
らんとのゝゝヲット合點と引受うんど。筆の重くゝ轉らぬて石炭絶ゝゝ意氣亂。
車輪ゝまわつて效もの花ゟ嵐の散々ゝ見物もありあらんと輦の緩ゝ破車蹈氷
臨淵試ゝ押出ゝてゝるものゝ

文久二年新春

柳亭種彦

玄湖書

鐵車小僧
なんの道も入
海老名王
北条
三光坊

秋の山彦九郎
百丈大岩面鳥根の洞窟
建る南四里と隔る松尾村の山より
東

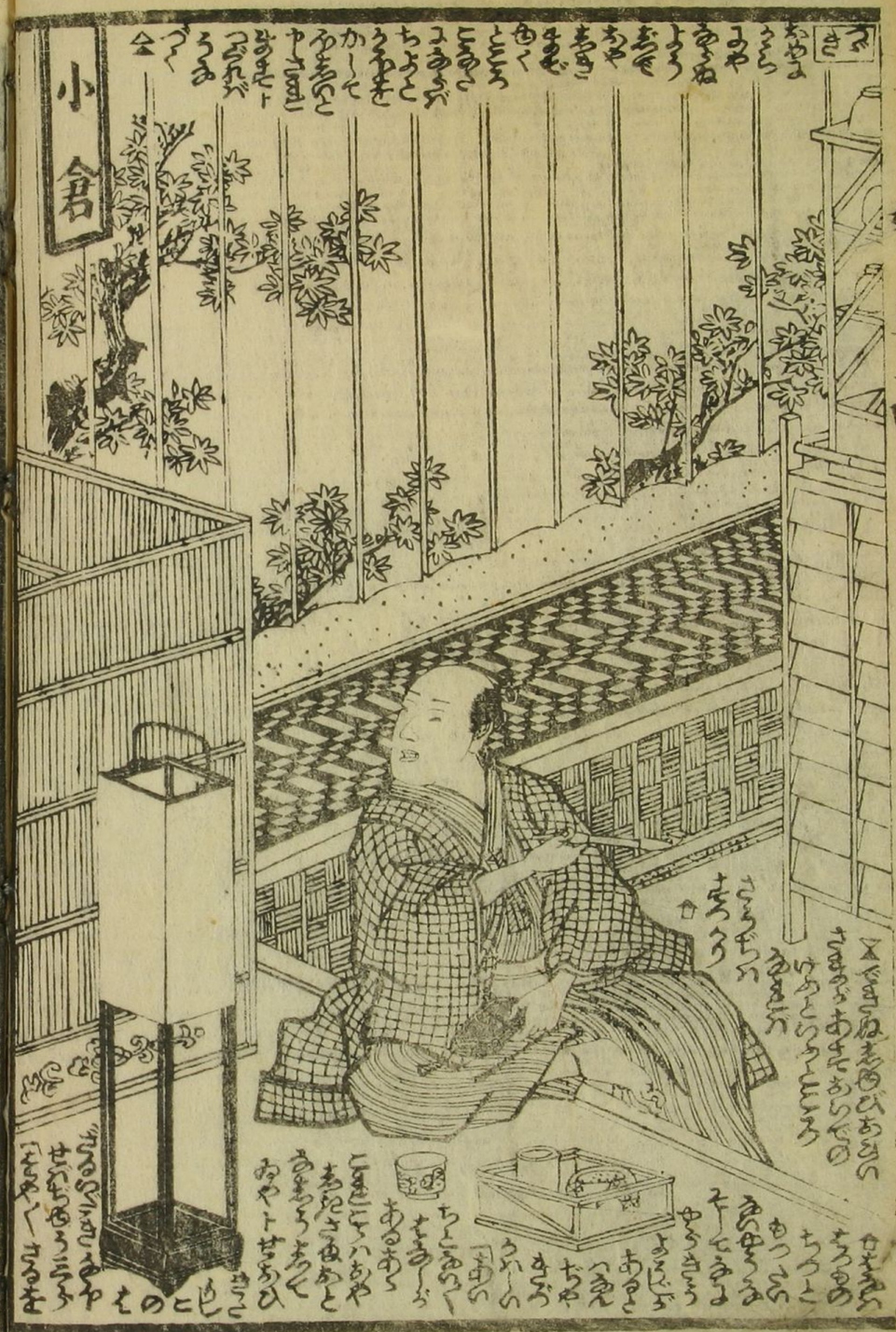
ふん女
ふん女

如々亜十四
兄十子鬼ぞ又ハ
寿十二出ぞ亜又ハ

○此三人の穿鑿未だ到らず名所判然

車
ゆさ

小倉



種彦著國貞画

御免痲積湯 せんきの妙薬

御売薬所 信州二田 東山堂製 [illegible]

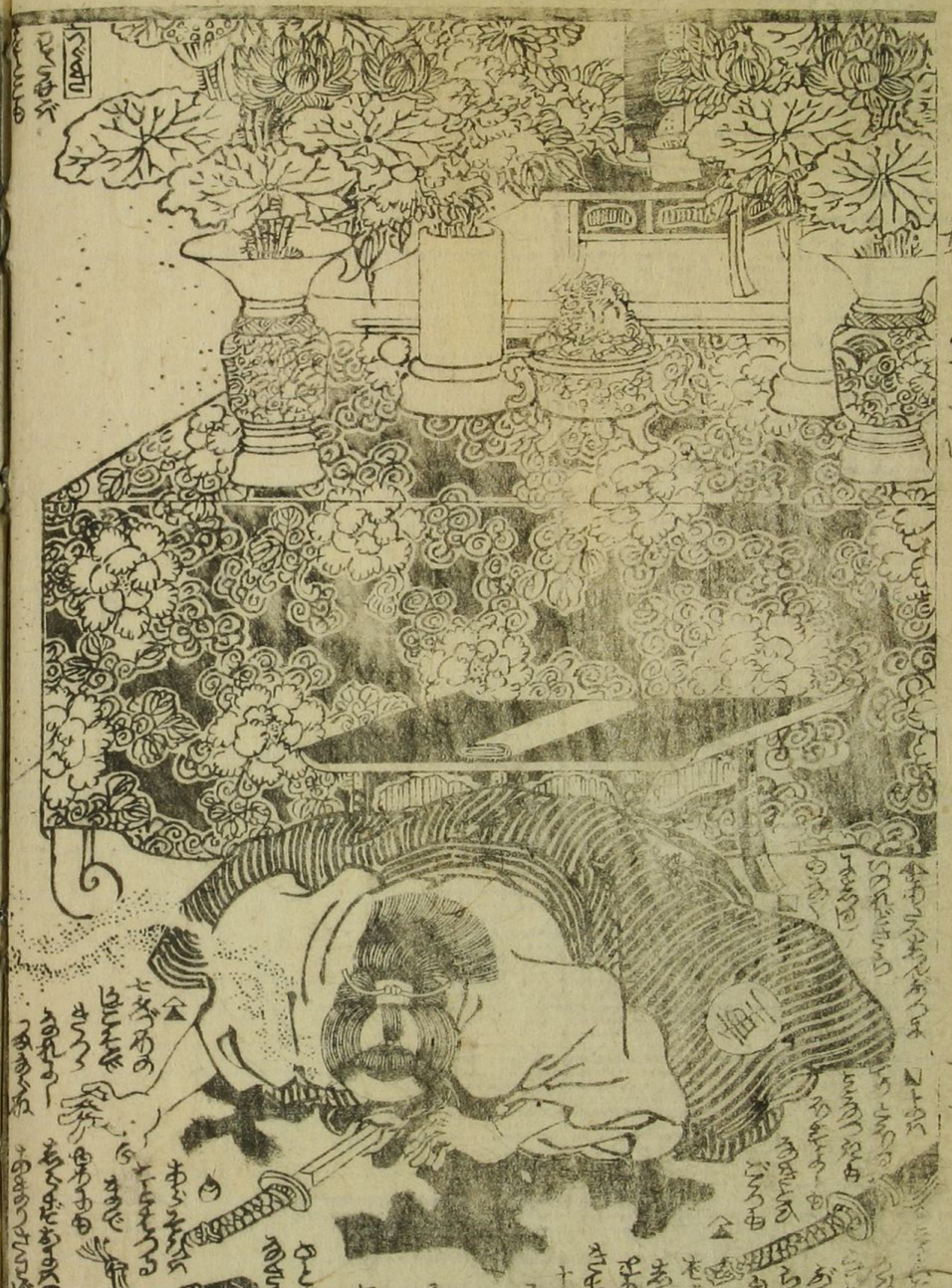
一包 四十八銅
一包 廿四銅

[illegible]

[illegible]

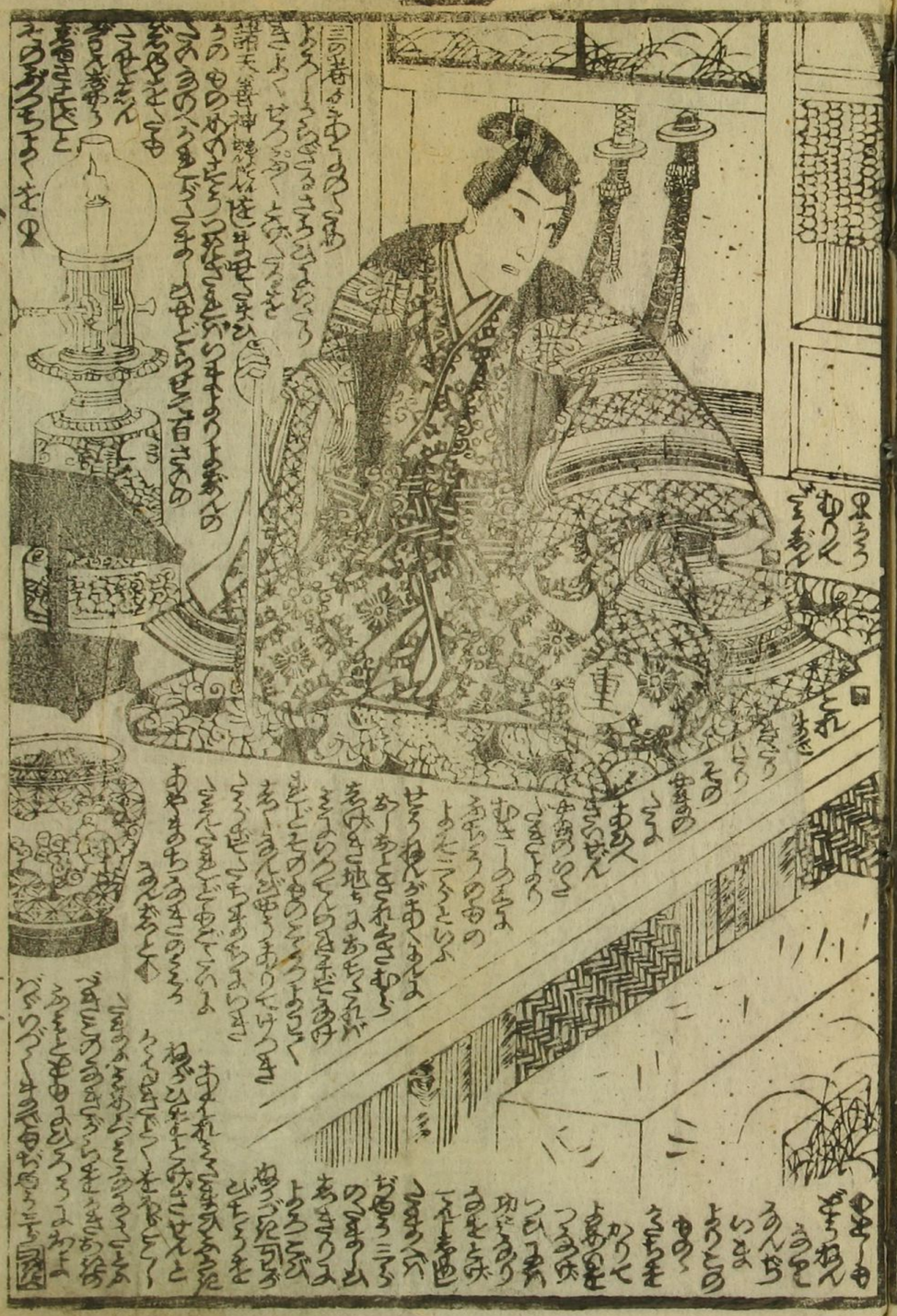
[illegible]

常夜燈



魂

月隈丹下
墓原よ
指南車の
小鏡を
拾ふ事十八篇よ
分解せとう
妖怪幻鏡
人を欺く事
十六年の
昔々



此偽書
本編
猶名を
騙さと

つゞき十八
わかさいのぶどう
のまもぎをもとに
うりばえのよさう〳〵

天下よ
てきこゑ
もりしと
まうりね
こうらう

日ちろづきらひけるが「ゑどにあんさよ
くもちをうくるよふなばらうきのと
んろりとを五太六ところさ（ま）
ようこゞとのろくのさゝ下ぶをそろ
つまびくうきものづくりのさんの
こるものもゞ六かをとをもりづよ
まびめうてめもやがこゝをもや
はもとうりてまへくよりもとつとまつぶ
まのあらせんとこもやん
もちが五太六ところん
つまざるといふ
ものをおもかゝ〳〵
はきつゝうろ
さうとこゝロ
けがりて
つまのとれ
らのとをを
ゆさがれ
筆をもちて
用の事
十五編よ
更よ精う

○以下二葉半極省の

ごろ〳〵ようまき
五太六
ひさまひろいうりうりびる
ふたをもの
あをづのぶ
さうとも
とこもの
せと

梅蝶樓國貞画
柳亭種彦誌

丈久三年癸亥陽春開板標目

弘法大師 筆海四國聞書 梅蝶樓國貞画 柳亭種彦作
舊跡新話 四編ノ六編まで當年出板

假名情談戀畦倉 梅蝶樓國貞画 瀬川如皐作
堤筑譽 初編ノ五編まで當年出板

明鴉墨重廼濱 六編ノ八編まで當年出板
俤時次郎 俤浦里 梅蝶樓國貞画 三亭春馬合作

童謡妙々車 十五編ノ 種彦作
十二編迄 出板 國貞画

花封誉玉章 七編 種彦作
八編 國貞画

薄傾幻日記 十編 春水作
十一編 十二編 國貞画

犬傳犬の双紙 四五編 柳亭作
四六編 國貞画

地本双紙問屋
南傳馬町壹丁目
蔦屋吉藏板